入札契約制度説明会

一般競争、総合評価等　国の動き踏まえ解説

県電設協会

県電設協会（山ノ内文治会長）は9日、鹿児島市の鹿児島電設会館で入札契約制度に関する説明会を開いた。約50人の参加者は、刻々と変化する国の動向等を踏まえ、拡大する一般競争入札の動きや総合評価方式の概要等について学んだ。

昨年4月の品確法施行を受け、国は総合評価方式の導入や一般競争入札の拡大、低入札によるダンピング対策等を積極的に実施。説明会では、同協会の河野竹重技術副委員長（㈱大麓電業）が、その仕組みや内容等について触れ、「この動きは、将来的に県・市町村など各自治体レベルまで及ぶものと考えられる」と今後の方向性等を示した。

今年度から県も試行予定の総合評価方式については、現在国が実施する簡易型、標準型の評価項目等を説明。「簡易型は、主に施工実績や技術者能力などを重視。標準型は、発注者が求める技術提案の項目が重視されている」などと、そのポイントを解説した。

変革する入札制度について理解を深めた説明会＝鹿児島市の鹿児島電設会館で

山ノ内会長は、「変革する入札制度は、企業経営の根幹に関わる大きな問題。各自治体の動きなども注視し、十分な知識業務に携わってほしい」と話した。

県建造物解体業連合会が見舞い金

出水市とさつま町　被災者への励みに

県建造物解体業連合会（江藤正幸会長）は9日、「18年7月豪雨」で甚大な被害に遭った出水市役所とさつま町役場を訪れ、「被災者への少しでも励みになれば」と見舞い金を贈呈した。

出水市役所では、江藤会長と鶴長親雄地区長、岩崎昇副地区長、田渕慎一理事ら出水市在住の会員が訪れ、渋谷俊彦市長に手渡した。市長は「ご好意に感謝します。被災者の皆さまらいます」と礼を述べ、今後の復旧対策等でしばし懇談した。

さつま町役場では江藤会長と坊野好伸川薩副地区長ら会員が、宮之脇尚美助役に手渡した。助役は「予想より早く瓦礫（がれき）の撤去や家屋の復旧が進んでいます。現地入りした皆さんには大変苦労をかけました。またお見舞い金をいただき感謝申し上げます」と礼を述べた。

地区会員は次の通り。

【出水地区】（敬称略）

産業㈱岩下建設㈱小田原建設㈲柏木産業㈱小畑商店㈱タイセイ工務店㈲田渕組㈲田渕産業㈱長崎組㈱浜畑組㈱ヒラヤマ㈱福井組丸岩建設工業㈱

【川薩地区】㈱有川組㈱入来建設㈲開成㈲祁答院土木㈱小園建設㈱木場建設㈱薩摩工務店昌和建設㈱㈱末吉土木㈱㈱田島金建設西日本興業㈱松田建設㈱㈱ヨスミ建設

被災者の見舞金を贈る江藤会長ら会員＝出水市役所（上）とさつま町役場

18年度専攻建築士審査評議会

76件の応募を審査

県建築士会

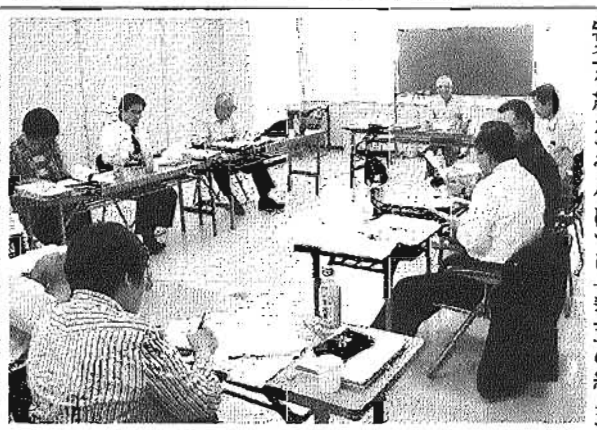
県建築士会（守真和弘会長）は9日、鹿児島市の県住宅供給公社ビルで18年度専攻建築士審査評議会（友清貴和議長・鹿児島大学工学部教授）を開き、県内各地区から応募のあった76件を審査した。

同制度は、消費者保護の視点に立ち、高度化かつ多様化する社会のニーズに応えるために、建築士の専門領域および専門分野を表示し、責任の明確化を図る目的で実施されているもの。専門領域としては、まちづくり、設計、構造、環境設備、生産、棟梁、法令の7領域のほか、今回から新たに教育研究の領域が設けられている。

会の冒頭、守真会長が「昨年、181人の選考建築士が本県で誕生しました。今回、6月に予備審査を終えた76件について審査を行っていただき、9月末に開かれる日本建築士会連合会の専攻建築士認定評議会へ提出したいと思います。10月には登録の運びとなる予定です」と挨拶。早速、審査に移った。

審査では、17年度の審査経緯の確認や予備審査の結果などが報告。審査方法等の確認を行った後、審査員ごとに振り分けられた申請書類をチェック。提出書類の漏れはないか、基準を満たしているかなど細かく確認していた。

最終的に76件すべてが審査をパスした。



慎重に審査を行う審査員＝鹿児島市の県住宅供給公社ビルで

県瓦工事業組合が街頭キャンペーン

瓦屋根の耐久性ＰＲ

県瓦工事業組合（池堂一瓦組合連合会長、53社）は8日、鹿児島市の鹿児島中央駅東口広場で「屋根の日」にちなんだ街頭キャンペーンを行った。

同活動は、屋根の末広がりの形にちなんで定めた8月8日の「屋根の日」に合わせて実施するもの。全日本瓦工事業連盟や全国陶器瓦工業連合会、全国いぶし瓦工業組合連合会などが主体となって、耐久性や経済性、安全性に優れた瓦の魅力等を全国各地でPRする。

同日は、池堂理事長をはじめ組合員がそろいの法被姿で参加。道行く家族連れらに、瓦屋根が持つ特性や悪質リフォーム業者に関する注意事項等を記したパンフレット、うちわ等を配布した。

マンションブームや新築住宅の洋風化等が進む中、池堂理事長は、「1400年の歴史で、日本の街並みをつくり上げてきた瓦文化。今後も、地域に根差した〝屋根の専門家〟として、その優れた性能をPRしていきたい」と話した。

パンフレットやうちわ等を配布する組合員＝鹿児島市の鹿児島中央駅東口広場で

鹿児島砂防ボランティア協会

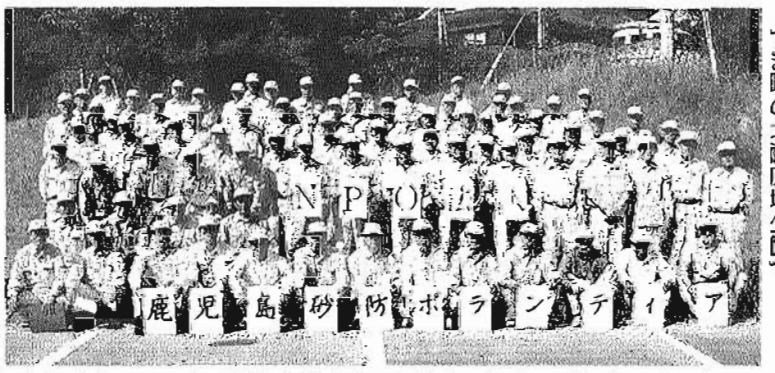
139カ所を緊急点検

NPO法人鹿児島砂防ボランティア協会（稲田博理事長）は8日、「18年7月豪雨災害」に関連し、菱刈町と旧薩摩町で急傾斜地崩壊個所139個所の緊急点検を実施。さつま町の北薩広域公園駐車場で85人が参加して出発式を行い、23班編成で目視点検や住民からヒアリング調査を行った。

稲田理事長は「現役時代に培った目で確かな点検をお願いしたい。炎天下での活動なので熱中症には十分注意していただきたい」と挨拶。

菱刈町前目の急傾斜地崩壊危険個所麓後(2)地区では、自然法面や崖面で表層剥離が数カ所見られ、現況を調査票に記録。また近くの住宅を訪問し、被災状況や自主避難、避難勧告、土砂災害警戒情報などでアンケート調査を実施した。

同町は金世帯に「土砂崩れ・河川の氾濫（はんらん）の恐れ」で土砂災害警戒情報を発令したが、今回の活動は、被災個所の現況点検とともに、警戒避難体制がうまく機能したどうかの検証と防災意識の啓発が主要な目的。調査結果は後日、砂防課に報告され、今後の対策の基礎資料に活用される。



緊急点検に出動した会員＝さつま町の北薩広域公園で

曳家（ひきや）工事・解体工事
土木一式工事・建築一式工事
株式会社 大城
県知事許可（特－17）第4087号
鹿児島市宇宿町1955-1　☎(099)275-3600(代)
FAX(099)275-3601番